

白門ライオンズ会報

Quarterly of Lions 2022.9-2023.1 No.27

東京白門ライオンズクラブ <http://hakumon-lions.org/>



2023年1月3日 於 箱根駅伝報告会。選手、応援団、応援チアリーディング部の皆さんお疲れ様でした！



2023年1月14日 於 年始めホームパーティー

ご挨拶

新年のご挨拶

会長 松田 啓



あけましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。皆様には、旧年中、東京白門ライオンズクラブの活動に、参加、協力していただき、大変ありがたく思っております。

昨年は、思い起こしてみると、世界あるいは日本において、決していい年ではありませんでした。新型コロナについては、ウィズコロナに考えを切り替え、ようやく世の中も動き出し来た矢先に、世界においては、2月のウクライナ侵攻、日本においては、7月の安倍元総理銃撃等、想像もしていなかった出来事が、起こってしまいました。ウクライナ侵攻については、一日も早く終結することを願います。

他方、東京白門ライオンズクラブにおいては、中央大学副学長佐藤信行L、前会長河野信之Lの両ノブユキLのご尽力により、東京白門ライオンズクラブ学生支部白獅子会が結成されました。白獅子会の結成は、330-A地区においても画期的な事柄であり、他のクラブからも非常に注目されています。

結成式については、330-A地区PR広報委員会副委員長の茂岡幹弥Lのおかげで、Lions News 地区ニュース電子版 (<https://330a.jp/the-lions-news>) の2022～2023年度VOL.

2に大きく取り上げてもらいました。また、白獅子会は、さっそく多摩キャンパスでの献血奉仕活動を開始していますが、この活動をバックアップしていただいているのは、GST 献血・骨髄移植委員会委員長の大久保英彦Lであり、大久保Lからの活動報告は330-A地区のHPの「クラブ」→「アクティビティ・イベントのレポート」のページでご覧いただけます。

また、今年は、やはり、茗荷谷、駿河台の新キャンパスへの移転が、中央大学にとって、もっとも大きなイベントとなります。そして、東京白門ライオンズクラブにとっても、結成20周年という大きな節目の年であり、11月26日の記念大会に向けて、大会会長根岸清一L（次期会長）、大会実行委員長榎秀郎L（元会長）、大会事務局長竹内敬雄L（元幹事長）を中心に着々と準備を進めております。

以上のように、白獅子会の活躍、新キャンパスへの移転、20周年記念大会実施が、中央大学、東京白門ライオンズクラブにとって、光となるものと思います。

会員の皆様には、今年が、中央大学及び東京白門ライオンズクラブにとって、大いなる飛躍の年になるよう、ご協力お願いいたします。

寄稿

政治家と絵、今昔の感

終身名誉会長 中山 正暉

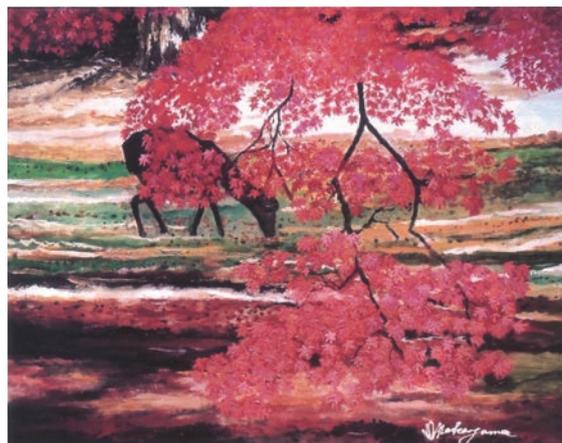


先年の産業新潮社11月号に私の描いた奈良の絵『鹿 古都を語る』が掲載されました。今迄も時折掲載され、鈴木誠先生のお宅のカラオケルームにも『天使の絵』『マルタ島の馬車』や『ボスボラス海峡の夜明け』等々。竹下内閣で郵政大臣をしていた頃、郵政機関紙の表紙に『人形棚』。これは娘の家にありますを持って行って返してくれません。

衆議院の先輩議員に野呂恭一とおっしゃる方が居られて、元高校の美術の先生で「中山君、政財界画人展をやらないか？」と相談を持ち掛けられて中曽根康弘、三木武夫、海部俊樹と、錚々たるメンバーの出演を得た何年かは継続することに成功したのですが、私が平成14年に引退することになった頃には、衰退して昔話になりました。

私の母は昭和22年に初当選して衆議院に19年6カ月間在籍し、その間池田内閣で厚生大臣に、就任日本初の婦人大臣になりました。その母の時代にも、財界から政界へ転出され外務大臣も務められた藤山愛一郎先生が主催されていた「チャーチル会」と称する、絵を描く政界人のグループがありました。

元とは言えば、英国首相として勇名を馳せたチャーチルに由来する会名です。私も訪英した際に、ダウニング街にある首相官邸隣接の財務大臣公邸の玄関先で、チャーチルのサイン入りの絵の本物を見ました。彼の強烈な印象とは違って、田舎の村の絵でした。政治家と絵、今昔の感あります。



「鹿 古都を渡る」産業新潮 (2022年11月号) 掲載

箱根駅伝感想

L 櫻井 俊宏



2023年第99回箱根駅伝、中央大学公式オンライン応援企画のメインコメンテーターを務めた櫻井俊宏です。

あらためて、中央大学の準優勝、おめでとうございます！箱根駅伝としては、1996年の第73回大会優勝以来の25年以上ぶりの好成績ということになります。

なぜ、このような成績を納めることができたのか。今大会、私は、「目に見えない力」というものを非常に感じたということを織り交ぜてお話ししていきたいと思います。

まず振り返ると、1区は1年生のスーパールーキー、溜池一太君。その背筋の伸びた堂々たる走りを集団の真ん中で展開する姿は、良い予感しかせず、その後の中大に待ち受けている好結果を象徴しているように思えました。区間4位で、2区、大学界のエースとも言える3年生・吉居大和君ヘタスキリレー。

やはり、この2区が今大会の中央大学最大のハイライトでしょう。

3年生のエース吉居君、初めての花の2区。最初で飛び出し先頭に躍り出ました。しかし、その後駒澤の4年生・田澤廉君に抜かれてしまいます。田澤君は10000mタイム27:23、外国人選手よりも速いゆえ、Twitter等で世界レベルの選手という畏敬の念もこめて「レン・タザワ」とも呼ばれています。

その後、下を向き、うつむき加減で走っているシーンもあるように見受けました。心が折れかかったのかもしれない。

しかし、その後、吉居大和君と小さい頃から愛知県のクラブで同じだった幼なじみでもあり、これまで田澤君と各駅伝でデッドヒートを繰り返してきた青山学院の4年生エース近藤幸太郎君が、吉居大和君を抜きました。この際、「ついて来い」と言わんばかりの近藤君のジェスチャーがありました。吉居大和君はこれについていきました。

徐々に吉居大和君はペースを掴み、2区の中継所前で日本を代表する3校のスーパースターエースが三つ巴になりました。

そして、最後の力を振り絞り、田澤君、近藤君の4年生スーパースターエースを振り切ったのは、3年生吉居大和。そのまま、2区は吉居大和君の勝利で終わりました。

吉居大和君、取材の受け答え等も極めて謙虚な好青年でありながら、巨大な闘志を胸に秘めていて駅伝に対する自負心は誰

第99回箱根駅伝大会 中央大学出走メンバー

1区	溜池一太	文1	1.03.02	区間4位
2区	吉居大和	法3	1.06.22	区間賞
3区	中野翔太	法3	1.01.51	区間賞
4区	吉居駿恭	法1	1.01.49	区間5位
5区	阿部陽樹	文2	1.10.36	区間3位
6区	若林陽大	法4	58.39	区間2位
7区	知守倫央	商4	1.03.15	区間4位
8区	中澤雄大	経4	1.04.58	区間7位
9区	湯浅 仁	経3	1.08.54	区間6位
10区	助川拓海	経4	1.09.27	区間3位
往路2位・復路2位 総合2位 (10.48.53)				

にも負けない(YouTubeの選手レーティングで自らの駅伝力を「オール5」と評していました)陸上競技者の模範のような選手。昨年の箱根駅伝1区、最初から飛び出し圧倒的な区間新、出雲駅伝1区区間新、全日本駅伝では、帯状疱疹で体調不良もありながら6区区間賞。

そして、今大会では、3区や1区を予想されながら、花の2区で駒澤田澤君、青山学院近藤君を力で振り切り、区間賞。全てのお膳立てが整ったからこそ、学生陸上界最強3者の競り合い、そして我々が吉居大和君が勝つという最高のシーン。思えば、見えない駅伝の神は、昨年から全てこの若者に微笑んでいるような気さえます。

そして、2区3年生吉居大和君から、同じく3年生で、吉居大和君と並ぶダブルエースと呼ばれる3区中野翔太君へ。

中野翔太君は、昨年、10000m28:00という中央大学最高、昨年の全大学記録でも2位というとんでもない記録を打ち立てました。それでも中野翔太君は、選手レーティング等で「自分は駅伝で貢献していないので」と自分はエースとはいえないという態度に終始していました。

2022年度の日本3大駅伝での戦歴

出雲駅伝
2022年10月10日
総合3位
(2.09.48)



全日本駅伝
2022年11月6日
総合7位
(5.13.03)



しかし、今大会、中野翔太君は、3区で他選手を寄せ付けない走り、区間賞をとりました。このときこそ、中野翔太君が自他共に認める「エース」となった瞬間なのでしょう。

4区、1年生吉居駿恭君へ。溜池君と並ぶスーパールーキーも、兄らが繋いだたすきを少しでも前で繋ぐという魂の走り、区間5位。5区2年生阿部陽樹君につなぎました。

阿部君は、昨年も1年生にして5区区間6位、10000m28:30で、どの大会でも安定している実力者。そして、中央大学は、5区区間賞の藤原監督、区間3位の山本コーチ、区間3位の大石コーチをスタッフに擁し、5区のノウハウについて最も蓄積がある学校といえなくもありません。これは「阿部君が区間賞を取る」条件が整ったといえると思いました。

結果、阿部君は過去の5区区間記録に迫る好走、しかし、前をいく2人が区間新を出す区間3位でした。

これも見えない力が、まだ2年生の阿部君を「4代目山の神」にするのであれば、100回記念大会がふさわしいとしたように思えました。

そして、往路準優勝！ この往路の5人は、来年も残ります。

次の日、3日は復路。中大は4人の4年生を並べてきました。4年生の最後の絞り出す走りを期待してのことでしょう。

6区は主将4年生若林陽大君。普段は物静かだが、陸上に対する闘志はものすごい。2年生時は6区区間5位、3年生時は6区区間5位と好走しても、悔しそうな顔をいつもします。

最後の箱根駅伝、最後の6区。若林君は素晴らしい走り、区間2位。しかし、駒澤大学を捉えなかったのでしょう。駒澤大学1年生・伊藤君はさらなる強い走りを見せ、区間賞。差は縮まらないことが残念そうな表情でした。



10区復路ゴール直前の助川拓海選手

7区、今期絶好調の千守倫央君、区間4位。

8区、走る哲学者と呼ばれるクレバーな4年生中澤雄大君、区間7位。

9区、昨年と同じく9区で爆走、区間3位を見せた3年生の湯浅仁君は区間6位。いずれも、意地と感謝のこもった3位以下の後続を引き離す強い走りを見せました。

そして、10区助川拓海君も区間3位という締めくくり、ふさわしい走りを見せ、駒澤に1分42秒差の復路2位、総合2位。3位の青山学院を5分32秒も引き離す圧巻の成績でした。

入学してから2位以上の成績を見ることがなかった、今後もうないのではないかと思う時代もあった私も目頭が熱くなりました。

今回の箱根駅伝を振り返ると、往路は中央大学に目に見えない「流れ」が完全にきていました。全員がコンディション良好、吉居大和君が勢いをつけ、往路優勝の目標に準ずる2位となったわけです。

そして、その流れは復路がはじまる直前まで止まりませんでした。駒澤や青山学院、國學院に体調不良者が続出。対して、中央は、前回区間上位経験者が3人。「これは優勝もある」と思われました。

しかし、駒澤はその流れを凌駕しました。実戦的には、駒澤の6区・1年生の伊藤君がどのような選手かあまりデータがなく、前回大会でも活躍した中央の若林君が抜くのではと思われたのに、むしろ伊藤君が区間賞を取ったのが大きかったと思います。

ただ、中央大学は総合3位を目指していた。それに対し、駒澤は絶対に総合優勝、三冠をとるという目標をかかげて突き進んでいたことが、少しずつの見えない差となって出てきたのではないのでしょうか。大八木監督が終了後退任を発表したことから、よほど今大会にける意気込みがあったのでしょう。敵ながらあっぱれです。とはいうものの、個人的には負け惜しみのようなものでもなんでもなく、一気に優勝までとっては、喜びの回数が少なくもったいない、次回を楽しみにしたい、と考えております。なぜなら、今回は記念すべき100回大会だからです。

吉居大和君という陸上界の至宝を中心に、選手がまとまっていき、4年生である次回大会こそ、満を持して優勝を狙う流れなのだと思います。

そのためには、選手の日々の研鑽、チームの研鑽等が差をつけることとなりますが、更に必要なものがあります。そう、目に見えないみんなの「応援」です。

その1人1人の応援があるからこそ、中央大学の応援全体が盛り上がり、選手が目に見える応援も増え、その力が選手を後押しするのだと、今大会の盛り上がりを見てひしひしと感じました。

皆様、100回記念大会優勝に向けて、共に中央大学を応援していきましょう。



1月2日箱根駅伝スタート前の応援（富国生命ビル前）



献血活動について

L 大久保 英彦



●白獅子会支部の献血活動について

2022年8月6日に東京白門ライオンズクラブ白獅子会支部が結成されました。

その後、日本赤十字社から11月に大学の校内で献血活動が行われるという連絡があり、東京白門ライオンズクラブに協力の依頼がありました。根岸幹事長からクラブの理事会に「記念品の提供」と「学生に活動してもらおう」という提案があり、さっそく検討に入り了承されました。記念品には「東京白門ライオンズクラブ」のシールを貼ることが決まり大急ぎで手配、大学のチャリーダー部の部室に記念品と共に配送しました。初めの記念品はBOXティッシュとなりましたが重量と嵩が張り、運搬に苦労しました。2回目は学生の意見を聞き、ウエットティッシュを配布しました。こちらはコンパクトでリーズナブルであり、学生にも好評でした。今後の記念品は皆様の会社で余っているノベルティなど、ご協力いただけるとありがたいです。

現地では、白獅子会支部の会員が授業の合い間に交代で参加し、献血の呼びかけや記念品の配布を行っています。軌道に乗るまでは、私がフォローしようと出向いていますが休憩時間に学生の話聞くことが楽しみになっています。

実績は、11月15日が36名、16日が54名、12月9日が



河合久学長を囲むライオンズクラブメンバー

42名でした。授業の開始時間になると、外にいる学生は極端に減りますが、その中でこの結果は上出来です。1月11日は河合久学長にも激励していただきました。

中央大学の学生は協力的で多くの献血者が見込めるとのことです、日本赤十字社は大いに期待しています。

学生支部の活動はライオンズ他クラブでも興味があり、330-A地区の広報が12月にインタビューに訪れ、佐藤信行L(副学長、應援団部長)と大石優花(学生支部)会長が対応しました。

1月は330複合地区のテレビCM用のPR動画の撮影が行われるなど、とても注目されています。

白門ライオンズクラブ会員の皆様も是非、多摩キャンパスに足を運んでいただき学生思慕の皆様と情報交換していただければと思います。学生食堂で食事するのも楽しいです。(お勧めは、キムチと食べるラー油、牛肉の乗ったうどんのキムらくん550円です。安い!ぜひお試しください)



左から久野なつみL(白獅子会)、佐藤信行副学長、谷井花音L(白獅子会)

●増上寺献血活動(1月2日、3日)

晴天に恵まれた芝増上寺で、GST献血・骨髄移植委員会(委員長 L大久保英彦)主催の献血活動が行なわれました。3年ぶりに参道には屋台が並び、多くの参拝者が来られました。

1月2日は増田ガバナー、阿部第1副地区ガバナー、杉原第2副地区ガバナーはじめキャビネット役員が多数来場し、挨拶と激励が行なわれました。2日間で献血は134名と、予想をはるかに超える結果となりました。ライオンズクラブの参加者は141名であり、この協力なしでは達成できなかった数字です。

東京白門ライオンズクラブは、松田会長を筆頭に延べ15人が参加しました。大学駅伝は惜しくも2位でしたが、参加50クラブの中で、参加数はぶっちぎりの優勝でした。白門ライオンズクラブの白いジャンパーを着て活動していると「中大の選手、頑張っているね」「毎年応援しているよ」など様々な声かけをい



役員も含めたライオンズクラブメンバーと増上寺にて献血をPR

ただきました。

また、河野信之元会長、白獅子会支部の大越秀人L(大越武雄Lのお孫さん)が献血に協力しました。

参加いただいたメンバーの皆様に感謝申し上げます。2日間、東京白門ライオンズクラブの存在が大いにアピールされました。



寄稿

中央大学の近況～2022年12月

L 佐藤 信行
(中央大学副学長)

私は、2022年12月7日に、東京白門ライオンズクラブの例会において、「中央大学の近況」について、お話し申し上げる機会をいただいたところですが、当日は時間の限りもあったことから、若干の補足の意味を込めて、改めて大学の近況について、ここにご報告することにしたく存じます。

中央大学は、2025年に創立140周年を迎えますが、同年度を目標として「Chuo Vision 2025」という中長期計画を策定しています。この計画は、中央大学のウェブサイト (<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/chuovision2025/>) でご覧いただけますが、教育、研究、社会貢献、スポーツ、施設等、本学の多様な側面について、どのように発展させるかを記しているもので、現在、大学はその目標達成に向けて多くの施策を実施しています。

そこで、ここでは、2023年度に向けた動きのいくつかをご紹介します。

(1) 都心キャンパス

2023年4月、都心に3つの(2つではありません!)新しいキャンパスが開設されます。まず、茗荷谷キャンパスは、茗荷谷駅から徒歩1分に位置し(都バス大塚車庫跡地)、法学部と大学院法学研究科(いわゆるロースクールではなく、研究者養成や社会人リカレントを担う伝統的な大学院)が置かれる他、法曹を目指す学生団体の会室なども設置されます。また低層階には、地域貢献を担う拠点として、保育園や学童施設等も設置されることになっており、新しい時代の大学キャンパスのモデルともいえると思います。

次に、駿河台キャンパスは、駿河台記念館の跡地に建築されるもので、近隣では最高層の20階建てのビル型キャンパスです。専門職大学院である、法務研究科(ロースクール)と戦略経営研究科(ビジネススクール)が置かれるほか、委員会関係施設も

入ります。なお、法務研究科の移転に伴って、市ヶ谷キャンパスは機能停止となります。

最後に、小石川キャンパスは、後樂園キャンパスの近くに開設される体育施設です。後樂園駅と東京ドームの間の道を東に進み、牛天神下の交差点に面し、小石川税務署の隣にあります。

これによって、中央大学の都心キャンパスは、後樂園キャンパス(理工学部が置かれています)と市ヶ谷田町キャンパス(国際情報学部が置かれています)の2つと合わせ、5つのキャンパスで構成され、全約2万8千人弱の学生収容定員のうち、約45%が都心キャンパス、55%が多摩キャンパスを主たるキャンパスとして配置されることとなります。

この5キャンパスのうち、小石川キャンパスについては、ご存じない方も多いかと思しますので、若干補足いたします。学生(とりわけ学部学生)にとっては、教室だけではなく、スポーツ施設や文化活動の拠点を含めた「大学キャンパス」の充実は、極めて重要です。小石川キャンパスは、敷地面積2,141㎡、延べ床面積1,520㎡と、決して大きくはありませんが、主たるキャンパス内にスポーツ施設がない法学部と国際情報学部の学生にスポーツに接する機会を提供するほか、いくつかの学友会所属団体の占用スペースも設置されることが決まっています。

(2) 新大学院研究科

中央大学は、2019年に2つの学部を新設しました。国際経営学部(多摩キャンパス)と国際情報学部(市ヶ谷田町キャンパス)です。両学部は、2023年3月にはじめての卒業生を送り出しますが、これに合わせて、国際情報学部を母体とする新たな大学院研究科「国際情報研究科(修士課程)」を設置します。情報と



茗荷谷キャンパス



駿河台キャンパス

法律の融合というユニークで先端的分野では、学部だけではなく、大学院レベルの研究教育が重要となります。国際情報学部の出身者のみならず、リカレントでの学びや研究にも応えられるカリキュラムを準備しています。

なお、国際経営学部の卒業生については、従来の大学院研究科への進学ルートが確保されていることから、当面新たな対応大学院は設置しないこととしています。

(3) 研究教育での新たな挑戦

当クラブの名誉会員でもある福原紀彦Lや酒井正三郎Lが学長であった時代から、中央大学は、研究教育の革新のために、様々な努力をしています。そのいくつかを御紹介しますと、まず、2023年4月には、中央大学が誇る法学研究機関である日本比較法研究所が、後楽園キャンパスへ移転します。これは、法学部・法学研究科と法務研究科の主キャンパスの間にあるというのみならず、現代社会にとって極めて重要な、学際研究（その中には、いわゆる文理融合が含まれます）をも担う拠点として、理工学部・理工研究科のあるキャンパスに置かれるという意味もあります。

また、近年中央大学では、AI・データサイエンスセンター、ELSIセンター(Ethical Legal and Social Implications)、教育力研究開発機構といった先端的な教育研究を担う学内組織を設

置して、学際研究や社会連携を強化しており、着々と成果を上げつつあります。前二者は、日本比較法研究所と共に後楽園キャンパス3号館の「産学官連携・社会共創フロア」に置かれ、さらなる学術研究の発展に資する計画です。こうした成果を基盤として、2023年度からは、都心3学部での教育連携も始まります。

教育力研究開発機構は、私が機構長としてお預かりしている組織ですが、大学における教育の高度化を任務として、様々な研究と情報発信を行っています。私のYouTube 動画シリーズ(!)なる謎のコンテンツもありますので、お時間のある際にご覧いただければ幸いです(<https://www.youtube.com/channel/UC2sshGveGI0SqdLqNKPd4HQ>)。

以上、中央大学の近況のうち、2023年度に向けた動きを中心に、いくつかを紹介しました。是非、母校の動きにご注目いただければ幸いです。

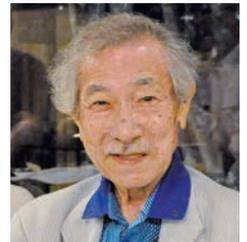


小石川キャンパス(イメージ図)

寄稿

室蘭白鳥湾に虹を架けた男達!!

L 星野 紘紀



—「旨いもの、全国巡り」—

多くの会社の退職定年は60歳となっている。私の多くの友人はその年令でリタイアし、その後は嘱託ないし子会社へと天下り、65歳から70歳で最終の年金生活に入る。

当時私は同期会で75歳までは現役(現場の第一線)で仕事をすると公言して居たが、結果として80歳まで現役を通し、公言通り80歳で監査法人、税理士法人の役員を退いた。

スキー、ゴルフそして傘寿記念の句集「東京の雑煮」も発刊する事が叶い、目標を達成出来たと思っている。

ところが良く云われる「今日、用」が無くなってしまい、加えて散歩嫌いとなってきているので、今では杖を放せない程足腰が弱ってしまった。現役の後半は年間60泊から70泊の出張を消化し、4月は九州から北海道まで、子会社の決算書作成で20日程連続の出張で、途中の大阪か、名古屋へ家内に着替えを送らせる事もあった。

ハンカチを入れて整ふ旅靴

勘定閉む一息(いっそく)も早也若楓

(「東京の雑煮」より)

今では良くぞ飛び廻ったものと思うが、それも楽しく充実した日々であったと思う。

私の出張は原則「前乗り(前日の夜に現地へ入る)」としていた。元々酒の飲めない体質で、また会社の人に宴席の設定で煩わせる事を避けて、自分で「地のおいしい店」を探したり、会社の人に情報をお願いしたりした。

九州は大分の魚が美味しい。魚のブランド化が成功した「関鯔」「関鯖」は関港に水揚げされた鯔、鯖のみに使われるブランドで、丸くコロコロと太い魚体が旨い。また「城下鰯」は、お城の下の海中に真水が湧いている箇所があり、そこで育った鰯が身が引締っていて、これまた美味である。

また、大分の出張は2月と決めていた。

2月は河豚の美味しい季節で、昭和40年代前半までは「肝」を食べさせる割烹があり、贅沢な出張であったが、その後、関西歌舞伎の三津五郎さんがこの肝で中毒死して取締まりが厳しくなり、今では食するのが難しくなっている。

熊本は加藤清正が築城した熊本城が有名であり、ライトアップされた夜のお城は見事であるが、城と並んで「馬刺し」(桜肉、蹴飛ばしとも云う)が旨い。

城を見て暑氣払ひとて馬刺し喰ふ

関東近辺では山梨、長野で街の肉屋さんでも取り扱っている。

八王子でも取り扱う店があるが、昔、山梨から荷駄を運ぶ馬や、上州から絹の道で正絹を運んだ馬が八王子で「くたばった馬」として食べた名残りと思口を云う人も居る。

広島「牡蛎」、名古屋「櫃まぶし」また「味噌かつ」「味噌煮込うどん」も名古屋が美味しいと思う。

昭和40年代当初、大阪道頓堀に連れて行ってもらった時には「かに道楽」の大きな蟹の看板や、ちんどん人形に大阪らしさを感じたものである。その蟹屋さんで「蟹焼き」を会社の方が注文したのであるが、運ばれて来たのが皿盛りの「焼いた蟹」で、会社の方が怒り出し、「かんでき」を持って来いと云い出した。大阪では「七輪」の事を「かんでき」と云うらしく、若い娘は「かんでき」を知らなかったらしい。

仙台は「牛たん」が名物となっているが、我家では「牛たん」はゲテ物扱いとなって居るので出張時に炭火牛たんを食するのが楽しみでもあった。

北海道は秋から冬にかけて魚介類が美味しいが薄野に「ウタリ」と云う「炉端焼」の店があり、煤けた柱に鰯、ホッケ、キンキなどを吊るしてあり、適当に注文して焼いてもらう。また、今でこそ日本国内味噌ラーメン店は多いが、「龍鳳」と云う札幌味噌ラーメン発生の小さな店があり、これも初めての味であり感動したものである。

旨いものは冬の食が多いように思う。

因みに、東京白門ライオンズクラブにも非公式の「旨いものを食べる会」があり（不肖私が会長）、食通の田口彰紀元会長が水先案内として浅草の駒形どぜうを始め、鰻、鮎、河豚等名店を紹介して戴くが、コロナ禍で暫く開催出来ずに居るが、残念な事である。

一室蘭白鳥湾に虹を架ける一

私達の大学卒業の頃は日本の産業構造の転換期であり、「重厚長大」から「軽薄短小」へと産業構造が変化した時代で、その変化を造船業界を通じて体験した。

私達の卒業年次は1963年であり、当時は「造船王国日本」と云われ、鉄の消費量は造船が高く鉄鋼の三菱重工、石川島播磨、川崎重工、日本鋼管等は全て造船を柱の事業とし、世界に冠たる「造船王国」であった。

当然金との兌換（だかん）が保証されたドルが世界経済に君臨して居り、船価の契約はドル建てであった。

ところが1971年8月米国ニクソン大統領が金交換停止を柱としたドル防衛策を打ち出し、戦後の国際通貨制度を支えて来たブレトンウッズ体制は崩壊し、1ドル360円の固定交換比率は変動交換比率100円代に円は切り上げられ、日本の造船業界も大打撃を受ける事になり、合法カルテル等の価格政策も効無く、造船は韓国勢に奪われる事になった。

壊滅状態になった全国の中小造船の再建を託されたのが来島どっくの四国の大将こと坪内寿夫であり、私達は本土の北部分（主として函館）の監査に係わった。

しかし、産業構造の変化であり、日本の造船業の競争力は復する事なく、一時橋梁への変換を策したが、結果として適わなかった。

このような環境の中で会社は室蘭白鳥湾に架かる白鳥大橋（写真参照）の架橋工事を受注した。

会社は室蘭にドッグを有して居り、また元々室蘭は鉄鋼の町で日本製鋼所等も、また室蘭工大（国立）もある町で受注環境は整っていた。写真のように白鳥湾に全長1380m、高さ139.5mと云う大きな鉄橋である。1997年初冬に工事は完成し、引き渡し前の11月、会計監査人として進捗観察に往く事になった。初冬の現場は工事上の施設はそのままであったが人影もなく、閑散として居り、白鳥湾を渡る風は非常に冷たかった。

現場には橋梁の最高所に昇るため鳥駕籠のようなエレベーターが残って居り、会社の方の案内で最高所まで昇る事になった。

最高所は10畳程の広さの台（私達の写真参照）が設けられて居り、その景観は素晴らしく登別方向の地球岬、すでに白雪の羊蹄山等会社の方の説明で絶景に見入った次第である。

さて帰ろうかと云う事で下へ降りる鳥駕籠エレベーターに乗ろうとしたのであるが肝心の鳥駕籠が無い。一同これには啞然としたのであるが当時は携帯電話も無く、結局、橋梁のアーチ部分に1.5m程の吊り橋のようなもの（キャッツ・ウォークと云ふらしい）が架かって居り、会社の方がこれを伝えて下へ降りる事になった。

後で聞いた話では、作業は終って居り、誰も居ない筈の現場で鳥駕籠が上にあっただので下からボタンで降ろしたとの事であった。

キャッツ・ウォークを伝えて降りた会社の方も怖かったと思うが、寒風に晒らされて残された私達も寂しく不安なものであった。待っている間に寒さのためか生理的に催して来、我慢も限界となり、全員で橋梁最高所でオシッコをする事になった。

寒風の中、139mの高所からの放水と云う事で、さぞかし白鳥湾の夕陽に照らされ、小さな小さな虹が架かって居たのではなからうか。清々しい気持ちで鳥駕籠エレベーターは無事地上に帰還する事が出来た。

産業構造の転換期の高邁な体験と云うよりも、大変尾籠な体験ではあるが、私には貴重な体験であった。



函館ドックにて（右から2番目）

2022年9月7日(水)

9月第一例会 於 銀座東武ホテル(芙蓉の間)



深澤英雄Lお誕生日会

2022年9月28日(木)

ガバナー公式訪問【合同例会】 於 東武ホテルレバント東京



茂岡幹弥L

2022年10月5日(水)

10月第一例会 於 銀座東武ホテル(龍田の間)



ドネーション発表

根岸幹事長と鈴木終身理事長による大学の近況

西壁L、宍倉徳子L入会式

2022年月11月19日(土)

第28回 校歌を唄う会 於 シーボニアメンズクラブ

コロナまだ収まらないなか、密にならないようにするため、前回同様シーボニアメンズクラブにて46名の参加のもと開催されました。

第1部は鈴木終身理事の紹介により日本私立学校振興・共済事業団理事長・福原紀彦Lの学校振興のお話、そして中央大学佐藤信行副学長による大学の近況報告がありました。引き続き、参加者の紹介とご挨拶。そして中山正暉終身名誉会長の乾杯の音頭にてスタートいたしました。

第2部は美味しい食事に舌鼓を打ち、ピアニストの西本梨江さんによるダイナミックな演奏。そしてヴィオリンとピアノ演奏ユニット「Ciel」によるパフォーマンス、今まで見たことのないリズムで大いに堪能いたしました。

歌、踊りと続き、恒例である櫻井俊宏L(元応援団長)の指揮のもと応援歌・校歌・エールで締め、第2部を終了しました。

第3部はいつもの通り参加者のカラオケタイムとなり皆様の素晴らしい歌声にしばれました。

福原Lの奥様・美絵子様による「岸壁の母」、中山終身名誉会長の「群青」、「逢わずに愛して」、東京駿河台ライオンズクラブから田中亜紀子会長の「六本木心中」等々…。大いに盛り上がり、榎秀郎Lの締めでお開きとなりました。

カラオケタイムはシーボニアメンズクラブのご協力のもと、16万曲も入っているカラオケを設置し楽しみました。シーボニアメンズクラブの田辺社長、ありがとうございました。

次回、第29回校歌を唄う会は5月27日(土)、同じくシーボニアメンズクラブにて12時から開催予定です。今からスケジュールに組んでおいてください。詳細は追って連絡いたします。

(L大越武雄・記)



2022年12月7日 (水)

12月第一例会 於 銀座東武ホテル (ロジェドール)



榎し、横井しお誕生日会

ゲストは防衛省統合幕僚監部総務部総務課渉外班2等陸佐・井出匡則氏。貴重なスピーチの詳細は次号にて



佐藤信行副学長より大学近況報告 (詳細は P6)

2022年12月21日 (水)

12月第二例会 於 銀座東武ホテル (シーボニアメンズクラブ)



2023年1月14日(土)

2023年 年始めホームパーティー 於 銀座東武ホテル(桜の間)

1月14日(土)銀座東武ホテルに於いて、年始めホームパーティーが行われ、元応援団出身でよく声が通る弁護士櫻井俊宏Lの司会で幕開けとなりました。

冒頭、根岸清一幹事長の開会のゴングと松田啓会長の挨拶で、年忘れではなく年始めになった経緯、中大が箱根駅伝に久々に準優勝した快挙などの話があり、会場のあちらこちらでも話題は中大の箱根駅伝準優勝で持ち切りでした。

次に榎秀郎Lから大学関係者およびライオンズ関係者、ご来賓の紹介があり、ご来賓を代表して日本私立学校振興・共済事業団理事長で前学長の福原紀彦L、河合久学長、村木秀之日本ライオンズ理事長からご挨拶をいただきました。

続いて陸上競技部、硬式野球部、水泳部、応援リーダー部へ大学支援金がそれぞれ贈呈され、いよいよ会食タイムです。

中山正暉終身名誉会長による朝鮮動乱前後の政界を取り巻く興味深いお話を拝聴し、中山先生によるウィ・サーブのご発声で会食タイムがスタートしました。

会食タイムでは増渕秀一Lの司会にバトンタッチ、会場内ではあちらこちらでテーブルを歩き来し歓談する姿が見られました。

しばらくしてからテーブルインタビューへ。硬式野球部長の檜山和男先生、水泳部長の青木英孝先生、応援団リーダー部の佐藤信行副学長、中央大学常任理事の大貫裕之先生にL茂岡幹弥がマイクを向けます。それぞれの先生が大学や部長をされている運動部の現況を丁寧にお話ししていただきました。

次に大久保英彦Lにテーブルインタビューをバトンタッチして、第一副地区Gの阿部かな子L、杉原省吾第二副地区G、石井征二

元G、進藤義夫元Gにマイクリレーをして会場を盛り上げました。そしていよいよ待ちに待ったアトラクションの始まりです。

最初に柳家小団治師匠による落語「ガマの油」で会場内は一気に笑いの渦に包まれました。古典落語ってホントにいいですね。

次のアトラクションはサプライズイベント! 応援団リーダー部による当クラブの学生支部、白獅子会が中心のチアリーディングのご披露です。チアリーディング部長の佐藤信行副学長の紹介があり、ブラスコア部による演奏付きのチアダンスは躍動感あふれ若さが漲って元気をもらいました。拍手喝采でアトラクションは大盛り上がりでした。

そして盛り上がった勢いでオークション大会とラッキーカード抽選会に突入! 柳家小団治師匠に進行をお願いして、竹内敬雄Lも加わり会員の方々が持ち寄った提供品が次々と落札されていきます。やっぱり皆さんお酒が入っていると気が大きくなるようで高額な落札もチラホラ。

ラッキーカード抽選会も会員の提供品でとても喜んで頂けたと自画自賛。最後のオークションの合計金額発表も予想以上の結果でした。

そして最後は当クラブ副幹事長で元応援団・櫻井Lによる学ランを着ての校歌斉唱とエールで有終の美を飾り、大会実行委員長のL茂岡による閉会の挨拶で盛会のうちにお開きとなりました。

とても盛り上がった良いホームパーティーでした。準備にご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

(L茂岡幹雄・記)





お知らせ

木村清L、スペイン国王フェリペ6世陛下より「エンコミエンダ章」を授与

2022年11月24日(木)、スペイン大使公邸にて叙勲伝達式が行われ、株式会社喜代村 代表取締役社長の木村清Lに、スペイン国王フェリペ6世陛下より文民功勞勲章「エンコミエンダ章」が授与されました。

この[エンコミエンダ章]とは、1926年に「偉大な活動や有益なイニシアチブ、職務の模範的な遂行などによって、スペイン国家の利益と繁栄に結びつく事に大いに寄与した者」を讃えることを目的として制定された歴史ある勲章です。

「すしざんまい」では、スペインで長年にわたり水産業の発展に努めており、マグロについては天然の生け簀で育てた高品質のマグロを必要に応じて取り上げ、日本に輸出しています。生産調整をしながら増殖させていくマグロの備蓄システムを構築し、水産資源の保護並びに安定供給に貢献してきました。

また、2021年に新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった際には、スペイン大使館職員の方々に喜代村での職域接種の機会をいち早く提供するなど、外交活動に貢献した点も高く評価されています。

今回、株式会社喜代村の代表として、また日本ラテンアメリカカリブ振興協会の名誉理事として、木村Lが双方の立場から、経済商業分野においてスペインと日本の関係に深く寄与してきたことが称えられ、栄えある勲章の授与に至りました。

叙勲伝達式では、はじめにフィデル・センタゴルタ駐日スペイン大使よりスペイン王国勅令の読み上げと勲章の授与が行われました。大使から送られた勲章を身につけた木村Lは、「光栄で身

の引き締まる思い」「皆様に支えられてのおかげ」と感謝を述べ、スペインとの今後のますますの関係促進を抱負に掲げました。

続いて二階俊博衆議院議員、西村康稔経済産業大臣、岩崎茂元統合幕僚長、田母神俊雄元航空幕僚長からご挨拶をいただきました。

かねてより木村社長と交流のある二階衆議院議員は「旧知の友人が名誉ある勲章を受章したことは誇らしい」と喜びの言葉を述べられ、西村大臣は過去スペインに行かれた際のお話を交えながら、魚食文化の豊かさを日本と重ね「すしざんまいで美味しいスペインのまぐろフェアをぜひ」と話し、会場の笑いを誘いました。

林幹雄衆議院議員より乾杯のご発声をいただき、祝福に駆けつけてくださったお客様との歓談の時間へ。財政界の要人をはじめ取引先企業様、ご学友など、100名近くの方がお集まりくださいました。

バンドの生演奏による明るい音楽が公邸に流れる中、スペイン大使館のシェフの料理とともに、すしざんまいの職人たちが寿司をふるまいました。日本のみならず世界各国の多くのゲストを交え、式典は厳かかつ晴れやかに執り行われました。



2023年11月26日(日)

東京白門ライオンズクラブ結成20周年記念大会開催決定!!

(ハイアットリージェンシー東京)

中山正暉終身名誉会長を中心として発足した【東京白門ライオンズクラブ】の結成20周年を祝う記念大会の開催が決定いたしました。

それに先立ち、当クラブでは記念誌(クォーターリー特別号)を作成を始めます。ライオンの皆様からは寄稿文を募集いたします。

同封した原稿文をFAX、またはメールにてお送りください(※なるべくワード添付メールでのご送付をお願いします)。

その他、当日のイベント企画案もお待ちしています!



結成15周年記念大会のようす(2019年6月1日)

企画案・寄稿文の送付先

FAX: 03-3204-9401 メール: kikuchi@noracom.co.jp
(株式会社ノラ・コミュニケーションズ・菊地宛)

ご不明点は大越武雄 L (090-1709-3922) までお願いいたします。

締切
9月末日まで

編集後記

この度第27号発行につき、皆様のご協力ありがとうございました。

新年早々、久し振りに箱根駅伝の素晴らしい報告が飛び込んできました。この結果でさらにお酒も進み、素晴らしい正月を迎えたと思います。

正月といえば豆腐は欠かせない料理ですが、なぜか豆腐は豆が腐ると書きます。豆腐は豆を腐らせて加工するどころか、きれいな水で加工する鮮度が命の食品なので、何か腑に落ちません。

腐るという字は、捕らえられた獣の肉を倉に保存しておく状態を表します。死後硬直で保存する間に硬直が解け、柔らかくなることから、中国語でぶよぶよ柔らかいものを意味する字にありました。豆腐は豆を使った柔らかな食品だから豆腐となったわけです。世の中には不思議なネーミングがたくさんあります。

豆腐の角に頭を——ではなく、豆腐のように柔軟性を持った会報の発行を目指してまいります。

皆様の楽しい記事のお待ちしております。

【L大越武雄・記】

Quarterly of Lions 2022.9-2023.1 No.27

発行日 2023年1月31日

発行人 L松田 啓

編集/総務・広報委員会 委員長 L大越 武雄 副委員長 L木村具成
コーディネーター L榎 秀郎

発行所 東京白門ライオンズクラブ

事務局 八王子市南大沢3-14-4-304 TEL/FAX.042-676-4147

制作協力 株式会社 ノラ・コミュニケーションズ

白門ライオンズ会報 揮毫 L中山 正暉



2022.7 ~ 2023.6

白門ライオンズの誓い
我々は、会員相互の友情
の絆を基に、同窓・学員の
信頼を深め、知性の根源
である中央大学の発展に
寄与することを誓う。
東京白門ライオンズクラブ

クラブスローガン

白門の絆を奉仕で結ぶ母校愛

東京白門ライオンズクラブ

白門ライオンズクラブ 🔍

<http://hakumon-lions.org>